

1.長期成長ビジョン（現在の事業概要）

当社は、北海道帯広市に創業しホテル事業を中心に経営している。宿泊事業においても新形態の宿泊施設にチャレンジし、宿泊事業以外の拡大も積極的に行い、地域振興に向けた活動を広く行っている。

【会社概要】

企業名：有限会社ホテル十勝屋
所在地：北海道帯広市西三条南10-14
創業：昭和39年 設立：昭和53年
従業員数：139名

【企業理念】

お客様に愛されるホテルを創る
お客様への感謝の気持ち×おもてなしの心

十勝帯広

札幌

ホテル事業 売上80%

十勝帯広エリア 3施設 札幌エリア 2施設

- ① 十勝イン:帯広駅近くで繁華街近くにある昭和54年からある老舗ホテル
- ② 十勝ガーデンズホテル:帯広駅の目の前と好立地。最も客室稼働率が高いホテル
- ③ レイク・イン:キャンプ場、天然温泉を併設した隠れ家的リゾートホテル
- ④ GARDENS CABIN:札幌の繁華街にあるキャビン型の簡易宿所形態の施設
- ⑤ GARDENS STAY:ビジネス、観光、コンサートなどのイベントに便利なサウナ施設付きホテル

その他事業 売上20%

- ・ 十勝ガーデンズホテルのシェフが手掛けるお弁当事業
- ・ ポテトけんぴなど十勝名物を使った物販事業
- ・ テナント収入など

①十勝イン

②十勝ガーデンズ
ホテル

③湯宿くつたり温
泉レイク・イン

④GARDENS
CABIN

⑤GARDENS
STAY

物販事業
Brand New
Tokachi



ホテル事業においては、施設平均の稼働率は80%越えと高い。札幌エリアのインバウンド需要を見据えて札幌エリアにも進出し売上向上をしてきた。2018年から新社長が就任し、積極的に新規事業も行い、ホテル事業以外の事業拡大も積極的に行っている。地産地消の食材を使ったお弁当事業やコロナ禍には十勝の魅力を自社から発信するための商品開発を行い自社のブランド力向上しながら、宿泊以外でも他社との差別化を行ってきた。

1.長期成長ビジョン

帯広市において、インバウンド需要をはじめとした観光誘致は課題となっている。特に通過型から脱却するために観光の拠点となる宿泊施設の充実は欠かせない。当社が帯広十勝エリアのシンボルとなる宿泊施設へ成長することで、観光客におけるエリア内の滞在時間を長くし、地域経済の活性化に大きく貢献していく。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

- ・ **ブランド力のさらなる強化**：**帯広市のシンボルとなる宿泊施設**へ施設の充実とサービスの充実をすることで、幅広く宿泊者のニーズを満たすホテルへと成長する。それにより当社の宿泊施設としてのブランド力を強化していくことで、相乗効果により全施設の稼働率・単価を向上させていく。
- ・ **帯広市のインバウンド需要拡大要因となる拠点へ**
観光資源が豊富な北海道において、**帯広市におけるインバウンド需要の獲得は当社のみならず、帯広市全体の課題でもある。**当社を中心として、帯広市の魅力発信し、当社宿泊施設を観光拠点として利用してもらうことで帯広市の更なる経済活性化に貢献していく
- ・ **帯広市内の観光産業の更なる発展への貢献**
当社が積極的に十勝エリアの企業と連携していき、帯広市の魅力発信と集客に貢献する。それにより相乗効果が生まれ、帯広市を中心とした十勝エリアにおける観光資源の活性化に貢献していく。

会社全体の売上成長目標（2030年度）

- ・ 売上高成長率280.3%
- ・ 売上高増加額35.6億円

会社全体の賃上げ目標

- ・ 1%（直近事業年度～基準年度）
- ・ 7%（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機

・ 外国人観光客の取り込み

帯広エリアの観光時の特徴として、通過型で消費行動も少ないため、「十勝モデル」を創出し滞在時間を増大させることが官民ともに課題となっている。また、とかち帯広空港に海外直行便が就航されたことからインバウンド需要拡大が見込め、追い風となっている。

・ 近隣企業の動き

新ホテルのオープン、リニューアルが起きているため、更なる優位性の発掘が必須である

・ ビジネスチャンス

北海道における安定したビジネス利用の多さ

豊富な観光資源による観光客の獲得と付加価値を高めることでサービス単価を向上させることが必要

内発的動機

- ・ 安定したビジネス客の利用によりコロナ禍の影響は同業他社と比べて最小限にできたため、積極的な投資が可能。
 - ・ 客室数の増加と老朽化施設の改善を行うことで、競争力強化を図りたい
 - ・ 遊休地の土地活用を行い、帯広市中心エリアの更なる活性化に貢献したい
 - ・ 地域振興のために様々な会に積極的に関与
- 「十勝サウナ協議会：会長」「十勝インバウンド誘客推進協議会：参画」「帯広コンベンション協会：理事」**を兼任し地域活性化に意欲的
- ・ 地元老舗ビジネスホテルとして、地域No.1の稼働率を誇る

1.長期成長ビジョン

帯広十勝エリアの特徴として、経済都市なため平日はビジネス利用が多く見込める。同エリアは空港、鉄道、高速道路すべての移動手段でアクセスが容易であり、観光資源も多くある。そのため、いかに滞在時間を長くしてもらえるかがカギとなるため、宿泊施設の充実が欠かせない。また、地域企業と連携して観光誘致の協力ができる当社のような老舗ホテルだからこそ地域活性化ができる宿泊施設を運営できる。

インバウンド需要と国際観光の多様化

■北海道内において、インバウンド需要は拡大傾向

北海道内における外国人観光客はコロナ前を超え

※外国人観光客数：3188万人（2019）⇒3678万人（2024）
※北海道運輸局より

■十勝帯広エリアとしての課題

外国人観光客が道央圏に集中しており、取込が必要

※外国人観光客：16.3万人（2019）⇒14.5万人（2024）
※北海道経済部より

■十勝インバウンド誘客推進協議会が発足

2024年より発足し、十勝エリアにおけるインバウンド需要獲得に向けて、
地域企業と自治体と連携して誘客施策を積極的に実施予定

■とかち帯広空港の国際線直行便就航

韓国の清州の直行便が初めて就航

外国人観光客の増加が見込める

デジタル化スマートテクノロジーの進化

■人材不足への対策

宿泊業界全体として、人材不足となっている。

人材不足解消のために、デジタル化を活用した業務負担軽減が課題。

■チェックインの自動化

負担の大きいチェックイン、チェックアウト時の顧客対応の自動化することで

大幅な70%以上生産性向上が見込める

$(8\text{ h} \times 4\text{名} + 4\text{ h} \times 2\text{名}) \Rightarrow (8\text{ h} \times 1\text{名} + 4\text{ h} \times 1\text{名})$

帯広十勝エリアの特徴

■北海道内における経済都市

北海道の耕地面積22%を占めるなど第一次産業が盛んである。また食品製造業も多く十勝ブランドの商品展開をしている大手企業も多い。また農業用機器や産業用機械などの製造業も盛んな経済都市である。

■豊富な観光資源

世界唯一のばんえい競馬、十勝牧場や三国峠など自然景観
六花亭や花畠牧場等の名産品が多くあり、空港、鉄道、高速道路もあり
アクセスが良く、観光しやすいエリアである。

地域経済への貢献

■目指す姿

十勝帯広エリアにおける観光拠点となる宿泊施設へ
地域企業と協力をを行い、観光資源の更なる活性化への貢献
帯広市におけるシンボルとなる宿泊施設へ

■必要な対策や課題

全国チェーンホテルとの差別化
宿泊施設の高付加価値化、デジタル化による生産性向上
地域企業とのさらなる連携とプロモーションの強化

有限会社ホテル十勝屋

2.補助事業の概要

当社の課題並びに帯広市内の観光産業における課題解決のために、客室数を増大させた最新の宿泊施設を建設する。それだけでなく、従業員の生産性向上となるようなDX化設備を積極的に導入を行う。それにより、従来よりも大幅な売上増加に加えて、労働生産性も大きく向上することが可能となる。

補助事業の背景・目的

- 繁忙期は満室となることから機会損失も発生している。現状よりも客室数を増大する必要性がある
- 客室増加だけでなく、施設充実も合わせて行うことで利用客増加が見込めると考えた
- 地元企業である社会医療法人博愛会所有の市内中心地の土地活用を共同で行うことで、帯広中心街の活性化を図る
- 客室増加に対応できるように、業務負担軽減を行い生産性を向上させる

設備投資の内容

- 8階建て180室のホテル新設
ベッドはダブルタイプ、最上階に展望大浴場（サウナ、露天風呂も併設）、地産地消にこだわった朝食を提供することで、**宿泊施設三大要素3Bを全て他社に負けない施設クオリティへと高める。**

立体駐車場の新設
最大規模の宿泊施設となり、宿泊者の駐車スペースの確保も必要となるため新たに立体駐車場を建設する。駐車場スペースの問題による機会損失を無くすことでさらなる稼働率向上も見込める。
駅近でもあるため、宿泊者だけでなく近隣住民や周辺施設利用者も活用できるようになることで宿泊者が利用しない日中の稼働も高めることが期待できる。

全施設のDX化
キヤッキュレス、多言語対応の自動チェックイン機を導入することで、**チェックアウト時の顧客対応の業務負担を軽減**させ、大幅な宿泊者増加にも対応できる体制を確立する。
その他、PMS、RPAやAIコミュニケーションツール、各種ロボットの導入により全館のDX化を促進させ、効率的な施設運営を図る。

事業費 (補助額)

45億円
(13億円)



新ホテルイメージ
十勝イン

目標値

項目	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度 + 3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	949	2496 (年平均上昇率 + 38.0%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	396	486 (年平均上昇率 + 7.0%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	-	- (年平均上昇率 + 7.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	78	90

有限会社ホテル十勝屋

2.補助事業の概要

ホテル建設の周辺環境と補助事業のきっかけとなった社会医療法人博愛会との連携について下記に記載を行った。当社が帯広駅の繁華街の中心に位置しているため、経済的波及効果が高く見込め、地域企業と連携した取り組みができる

【社会医療法人 博愛会 所有地】

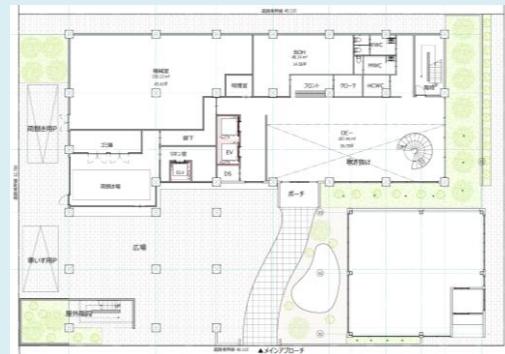
北洋銀行帯広支店跡地 1,500m² (現在更地)

市内中心地活性化を目的として博愛会と連携し、博愛会所有地に日帰り入浴可能な展望露天を完備した宿泊施設を当社が建設。

博愛会は、医療機関や、飲食店などが入る複合施設を建設する。(博愛会の事業は本補助事業対象外で実施)



【完成イメージ】
広場を大きく作ることで、人々が集いやすい環境を提供する。



帯広駅から藤丸百貨店までを中心に繁華街として栄え、その東西に飲食店が多く立ちならんでいる。

当社のホテル建設予定地は繁華街の中心に位置する。社会医療法人博愛会と連携して繁華街の活性化のためにも、人流が活発化するような施設の建設を考えた。当社が宿泊施設として市外からの人流増加を見込み、博愛会が医療施設を中心とした複合施設にすることで、市内の人流増加を見込み、相乗効果で市内中心地の人流増加により、繁華街の活性化を考えている。

【藤丸百貨店】

地元資本の百貨店が2023年に122年の歴史に幕を閉じ、中心地の交流人口が減少。

現在、人流増加に向けた再開発が予定されており、2030年を目途にリニューアルオープン予定。



【当社所有地】

大型テナントビル跡地 1,000m² (現在更地)

市内中心地活性化に向け、老朽化が進んでいたテナントビルを2024年に取得し、2025年3月に解体工事が完了。

当社が立体駐車場を建設し、宿泊利用者の利用並びに近隣施設利用時の駐車場として提供する。

将来的には、藤丸利用者への駐車場サービスの提携もう予定。



帯広駅
徒歩6分

【ホテル周辺の豊富な飲食店などの観光施設】

- ・ 六花亭 帯広本店
- ・ カレーショップインディアンまちなか店
- ・ 北の屋台

その他多数の飲食店あり、宿泊時の経済効果が見込める